

歴史散歩

文——多古町郷土史の会

◆第13話◆

稲荷神社

十余三三三道祖神二八四番地の二二の五に祀られている十余三区の鎮守様で、近年まで『赤池十二神樂』が奉納されていたことでも有名です。

明治の初めには政府の後援により、この周辺を含む古くからの馬牧、旧幕府領下総十二牧の開拓が進められ



赤池十二神樂の舞台ともなっていた拝殿と、境内に建ち並ぶ石狐



稲荷神社本殿

ました。明治二年(一八六九)に始まったこの事業で、最初に開拓された土地の字名は初富。その後も開拓地は、二和・三咲・豊四季・五香・六実・七栄・八街・久美上・十倉・十一・十余二と開墾順にちなんで名付けられ、十三番目であった当地区は十余三となりました。

当社は、明治四年(一八七二)に入植した初代の開拓者が、事業の成功を祈り石宮を祀ったのが始まりで、明治十三年(一八八〇)、生活も安定したころに改めて、鎌ヶ谷市初富の豊作稲荷を分祀したと、いわれています。



御料地に姿を残す土堤は、馬が駆け巡っていた時代をしのばせる

野馬よけの土手

十余三三三稲荷前三五二番地に残っている土堤で、旧馬牧の遺構です。元文年間(一七三六〜四二)以前に築かれたといわれます。この築堤によつて野馬の逃散を防ぎ、隣接農地の作物を野馬の食害から守っていました。

町の北西部一帯を含むむ北総台地の広大な原林野は、古代から野生馬の放牧地でした。慶長五年(一六〇〇)の関ヶ原の戦い以降は、



野馬よけの土手

徳川家康が軍馬確保の手段として、小金・佐倉・嶺岡にいわゆる房総三牧を設置。その後、幕府直轄の馬牧として十一牧に区分され、さらに後、小金五牧と佐倉七牧に分割されました。ちなみに、この多古町十余三・旧大塚町十余三・成田市十余三付近は佐倉七牧のひとつで、矢作牧と呼ばれていました。

胃をいたわる食事

文／国保多古中央病院 栄養科

皆さんの胃は疲れていませんか？ 今回は、不規則な生活や暴飲暴食にもひたすら耐えて頑張っている胃について、お話しをしたいと思います。

①胃のミニ基礎知識

胃は、食道と十二指腸の間に位置する袋状の臓器です。胃は胃底部、胃体部、前庭部の3部に分けられます。胃の入り口が噴門部、出口が幽門部で、この2カ所は固定されています。ただ、ほかの部は固定されていないので、自由に広がることができ、食べ物を必要以上に取り込むことも可能です。食べ物が入った胃はしばらく、幽門と噴門が閉じ、胃液と食べ物を混ぜ合わせ、少しずつ十二指腸に排出します。その後、十二指腸で胆汁と胆汁が混ざり合つて消化が始まり、次いで小腸で吸収が始まります。健康な胃とは、このような機能を維持している状態といえます。

からだ



胃の健康を保つには、やはり全身の健康を保つことがとても重要になります。仕事と休養のバランスをとる、ストレスと上手につき合っていく、さらに適度な運動を続けることが胃の健康につながります。今、胃の症状に不安がある方は、早めに医療機関で受診しましょう。

②胃にやさしい食事
不健康になった胃をいたわる食生活の基本は、胃に刺激を与えないように、消化がよく、負担を掛けない食事を心掛けることが大切です。次のことに注意しましょう。



追跡レポート! ———— この職業・この人たちの24時間



思いやりと奉仕の心で安全運転！ 介護タクシー運転手さんの一日

紹介者：高橋敏夫さん(谷三倉)

私は平成17年11月から介護タクシーの運行を開始しました。介護や介助が必要な高齢者や障害のある方を、通院先などに輸送する介護タクシー。そのため、乗り降りを補助するステップや、車いすのまま乗車ができるリフトの付いた特殊な車両を使用しています。運転するには2種免許はもちろんのこと、自宅のペットや車いすからの乗降などに対応するため、ホームヘルパー2級の資格が必要です。また、車両の安全を確保するため、3ヵ月ごとの法定点検と毎年の車検が義務付けられています。

通常のタクシー同様、距離制による運賃が定められており、初乗りが2キロまで640円、以降296メートルを増すごとに80円が加算されます。身体障害者手帳や療育手帳をご提示いただくと料金が1割引に、また、町が発行している「福祉タクシー利用

券]をお使いいただくと、料金の一部が町から助成されます。依頼時の聞き取りにより、緊急を要すると判断した場合は、救急車での対応をお願いする場合も…。心苦しいのは、依頼が重なりお断りをする時ですね。皆さんが利用したいと思う曜日や時間は、意外と同じなんですよ。

仕事を始めてから1〜2ヵ月は、全く依頼がありませんでした。施設を回ったり、広告に載せたりして、やっと利用が増え、最近では町外からも依頼が来るようになりました。一人暮らしの方とは、車中で世間話をしたり、また家族の方からは、送り迎えの合間に介護の相談を受けたりと、運転するだけの仕事だとは思っていません。今自分がこの年齢だったからこそ、この仕事を始めたんでしょ。信頼してくれる依頼主の方がいる限り、責任を持ってこれからも続けていきたいですね。



取材協力：ケア輸送サービス高橋